



鹿教湯温泉の泉質

鹿教湯温泉の泉質は、**単純温泉 弱アルカリ性 低張性 高温泉**です。

単純温泉とは？ ▶▶▶ 泉質による分類

温泉は、単純温泉・塩化物泉・炭酸水素塩泉・硫酸塩泉・二酸化炭素泉・含鉄泉・硫黄泉・酸性泉・放射能泉の9種類に分類されます。単純温泉は、含有成分が微量なため即効性は期待できませんが、**石鹸の効きが良く柔らかく気持ちがい・刺激が少ない**ので脳卒中のリハビリなどに利用され、中風の湯・神経痛の湯ともいわれています。

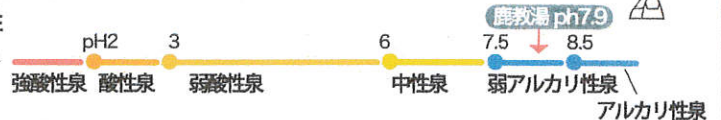
■浴用効果：鎮静効果大きく病後回復・疲労回復・ストレス解消・健康増進など

■飲用効果：胃の粘膜に弱い刺激を与える性質があり、慢性胃腸病・慢性便秘・リウマチ・腰痛など間接や筋肉障害や、神経障害など



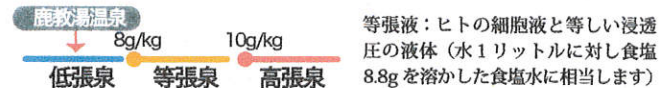
弱アルカリ性とは？▶▶▶ 水素イオン濃度 (pH 値) による分類

一般に、酸性泉は皮膚病に効果、アルカリ性泉は美肌効果。酸性度が高いと殺菌効果により皮膚病に効き、中性泉は肌に優しい、アルカリ度が高いと肌の角質を取るため美肌効果があります。



低張性とは？ ▶▶▶ 温泉の浸透圧による分類

理論上、高張泉は成分をカラダに吸収しやすく、低張泉はサラサラしたやさしい湯という傾向で、水分をカラダに吸収しやすい温泉です。



高温泉とは？ ▶▶▶ 湧出口 (源泉) の泉温による分類

一般に快適な入浴温度は 42℃前後であるため、高温泉以外は加熱が必要。源泉温度が高いほど効能成分が多い傾向にありますが、刺激が強すぎたり、加水する必要もあり成分が不安定になります。鹿教湯温泉は、29℃から 57℃までの 5 源泉を集中管理方式により混合しているため、安定した湯温・成分でお楽しみいただけます。



鹿教湯温泉の特徴

① 混合泉であること

集中管理方式により、5つの源泉を混合して施設に給湯しています。これにより、最適な温度調節・温泉成分調整が行われ、皮膚にやさしく、抜群の保温効果が認められています。また、酸化防止・湯もみ効果もあります。<源泉 2号 46℃・3号 54℃・4号 29℃・5号 38℃・6号 57℃により統一温度 48℃を基本に給湯しています>

② 掛流し温泉であること

鹿教湯温泉は原則として、掛流し温泉の条件「加水無し・加熱無し・貯湯無し・薬剤 (塩素) 無し」を満たした温泉です。



③ 岩漿泉温泉であること

鹿教湯温泉は、岩漿泉 (化石水) と呼ばれるマグマから生じた成分が初めて水になった温泉です。雨水等の循環水ではないため非常に清潔な温泉です。また、陽イオンも多量に含まれているため、α波の発生を促進し、カラダがリラックス・回復出来る温泉です。

④ 保養温泉地の条件を満たしていること

1. 泉質の効能と効果が顕著である。
2. 不純物が無く清潔で、無色透明・無味・無臭である。
3. 自然に恵まれ景観豊かな環境にある。
4. 天災地変の災害に見舞われない。
5. 地域の人情に満ちている (パッセージータ鹿教湯)。

結論 !!

● 泉質による効果・効能

高血圧症・動脈硬化症・脳卒中の後遺症・神経痛・慢性関節リウマチ・慢性筋肉リウマチなど

● 温泉周辺の自然環境

鹿教湯温泉郷を囲む四季折々の美しさを魅せる自然環境、文殊堂、薬師堂などの鹿教湯二十一番名所巡りコースでのリラックス&健康歩行

● 病院&クアハウス

鹿教湯病院およびクアハウスを核とした医療・福祉・機能回復・健康増進施設との連携による生きがいくりの里



以上のことから、鹿教湯温泉は滞在型温泉療養に最も適した温泉地といえます

◆ 病気予防と病気治療が出来る温泉地は、信州・鹿教湯温泉だけです！ ◆

※ただし、体力・体質・体調により適正な入浴 (温泉利用) 方法が必要です

ところで、温泉とは？ ① 地中から湧出する温泉 ② 湯水、鉱水および水蒸気その他ガス状のもの (炭化水素を主成分とする天然ガスを除く) ③ 地中から湧出したときの温度が摂氏 25℃以上のもの又は 25℃未満でも指定された物質を一定以上含むこと (リチウムイオン、水素イオン、ヨウ素イオン、フッ素イオン、メタケイ素など 19 の特定成分)